

吉野森林交流センター

《施設概要》

事業主体：南陽市
施設名称：吉野森林交流センター
所在地：南陽市荻 876 番地
用途：集会場（地区公民館）

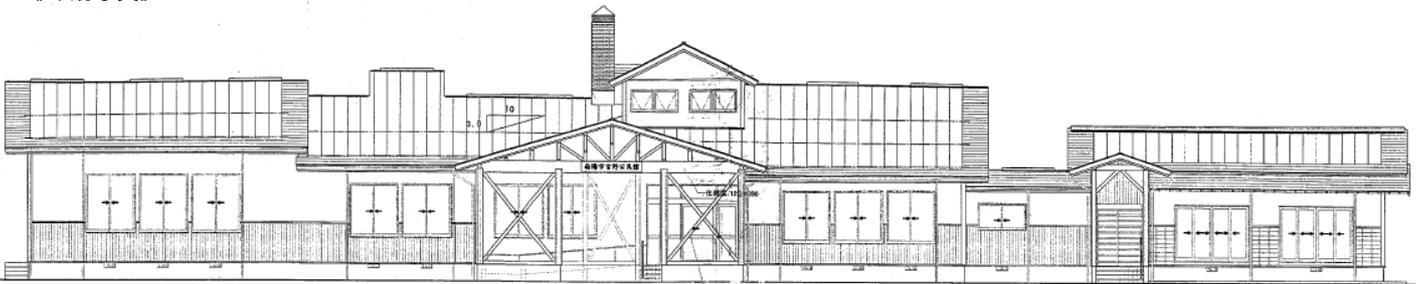
《使用木材》



木材使用量 188.8 m³
(うち南陽市産杉材 158.5 m³)



《外観写真》



《南立面図》

●施設の特徴、内容

吉野森林交流センターは、平成 22 年度「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」に基づき実施された森林・林業再生総合対策、林野庁所管森林整備加速化・林業再生事業（木造公共施設設備・先駆的施設整備）により、施工された木造施設である。施設の特徴としては、全面バリアフリー化、省エネ化、地産地消（木材分離発注）、床下調湿炭使用等が挙げられる。

■建物概要

階数：地上 1 階
構造：木造
小屋組方式：和小屋組
敷地面積：5043.16 m²
延床面積：574.47 m²
各階床面積：（森林交流センター）494.98 m²
（ふれあい談話室）79.49 m²
最高軒高：7.2m
最高高さ：9.66m
耐火・準耐火：その他の建築物

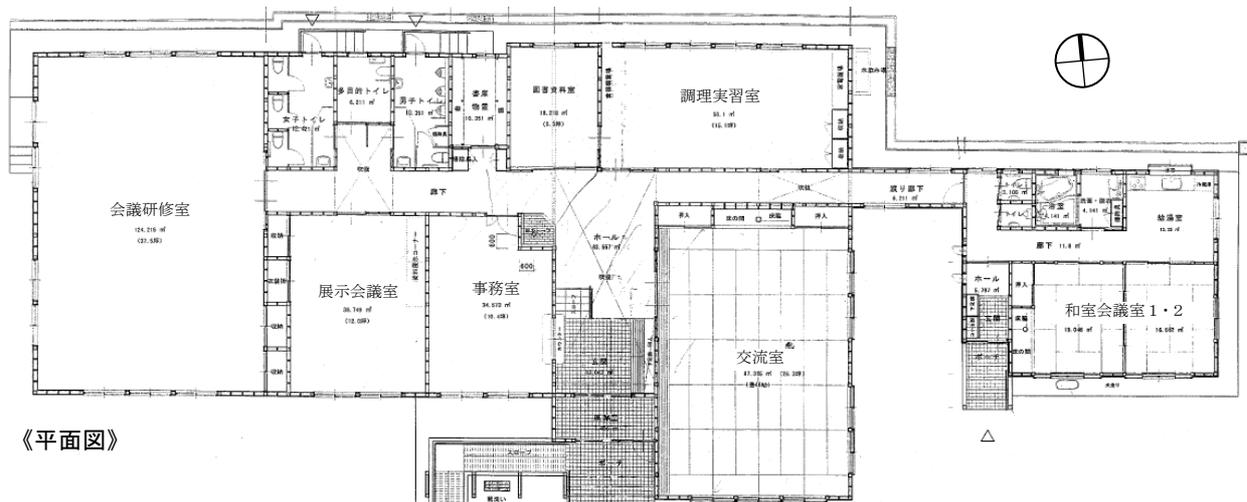
■主要仕上

外部仕上

（屋根）t0.4 mm 長尺カラー鉄板葺き
（外壁）t12.0 mm 窯業系サイディング張り シリコンアクリル塗り
（その他）軒裏：t6.0 mm ケイ酸カルシウム板目透かし張り EP 塗り

内部仕上

（床）構造用合板（ネタルス）t28 mm 下張り
無垢杉フローリング張り t15 mm PU 塗り
（壁）せっこうボード t12.5 mm 下地 ビニルクロス張り
（天井）天然木羽目板張り t12 mm 木部保護塗装仕上
一部せっこうボード t9.5 mm 下地 ビニルクロス張り
（その他）腰壁：天然木羽目板張り t12 mm 張り CL 塗り



《平面図》



《会議研修室》

●設計における工夫点

- ・全建築木材使用量の84%を、地元南陽市吉野地区産のスギ材を使用した。
- ・設備計画について、外窓紫外線カットペアガラス、冷暖房設備、斜熱シート、エコ照明を採用した。
- ・玄関ホールは吹き抜け構造で天窗による採光と通風に配慮した。

●木材を採用した理由

南陽市では、木材の需要拡大を図るために効果的な施策の推進に積極的な役割を果たすことを目的とした「公共建築物等における木材の利用促進に関する基本方針」を策定した。この基本方針に基づき、公共建築物等における南陽産木材・置賜産木材・県産木材の利用に努めている。木材のもつ健康的で温もりのある快適な生活空間の形成を通じ、木と触れ合い、木の良さを実感する機会を提供するとともに、一般住宅等への地域材の利用促進を図り、併せて地域住民の交流する拠点として「吉野森林交流センター」を新設した。



《交流室》



《展示会議室》



《和室会議室 1・2》

■事業概要

設計者：南陽設計家協会

施工者：(建築) 株式会社松田組

(電気) 株式会社東北電化工業株式会社

(機械) 株式会社狩野設備工業

工期：平成23年4月～平成23年11月

設計費：5,407.5千円

建設費：113,263.5千円

1㎡あたりの建設費：197千円